

# 2025年度事業報告

(2025年4月1日から2026年3月31日まで)

公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

# [2025年度事業報告]

(2025年4月1日～2026年3月31日)

## 1 人材育成事業

「知の交流拠点」機能を発揮し、ライフサイエンスの発展を担う研究人材を育成するため、研究交流を通じた人材育成事業を実施した。

### (1) 千里ライフサイエンスセミナー

ライフサイエンスを先導する第一線の研究者が先端的な研究成果・動向等を発表・紹介するトップクラスのセミナーと国際シンポジウムを開催した。

[詳細：別表1]

セミナーNo・開催日	テーマ	コーディネーター	講師	参加者
X1 2025年 5月21日(水) ハイブリッド開催	新興感染症のウイルス学	国立健康危機管理研究機構(JIHS) 国立感染症研究所 獣医科学部 部長 前田 健 国立健康危機管理研究機構(JIHS) 国立感染症研究所 ウイルス第一部 部長 海老原 秀喜	7名	320名 (31名)
X2 2025年 7月29日(火) ハイブリッド開催	脳免疫機能の生理から病理まで	山梨大学・医学部長、同大学院・医学域長、同大学院総合研究部医学域 薬理学講座 教授 小泉 修一 名古屋大学大学院医学研究科 分子細胞学 教授 和氣 弘明	6名	427名 (54名)
X3 2025年 9月4日(木) ハイブリッド開催	がんシリーズ 第10回 がんの臨床応用に向けて の新規モダリティ	大阪公立大学大学院医学研究科 病態生理学 教授 大谷 直子 大阪大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学 教授 保仙 直毅	6名	412名 (40名)
X4 2025年 11月19日(水) ハイブリッド開催	躍動する中分子創薬:現状 と今後の展望	大阪大学 共創機構 特任教授 坂田 恒昭 国立医薬品食品衛生研究所 遺伝子医薬部 部長 井上 貴雄	8名	612名 (58名)
X5 2026年 1月21日(水) ハイブリッド開催	生命科学の未来を拓くクライオ電子顕微鏡のフロンティア	大阪大学大学院生命機能研究科 日本電子 YOKOGUSHI 協働研究所 特任教授 難波 啓一 大阪大学蛋白質研究所 電子線構造生物学研究室 教授、 大阪大学蛋白質研究所 高分解能クライオ電子顕微鏡研究室 教授 加藤 貴之	7名	373名 (60名)
X6 2026年 2月5日(木) 会場開催	2026 Senri Life Science International Symposium & The 15th International Symposium of IFReC “International Symposium on Advanced Immunology 2026”	大阪大学免疫学フロンティア研究センター (WPI-IFReC) 拠点長・教授 竹田 潔 千里ライフサイエンス振興財団 理事長 審良 静男	5名	229名
参加者合計 2,373名/6回				

( ) うち会場参加者数

(2) 新適塾

ライフサイエンス各分野の先端的な3つのテーマについて、第一線の研究者と若手研究者等が自由闊達に議論できる場を提供し、研究人材の成長を支援した。新適塾は緒方洪庵の適塾に因んで名づけられた勉強と交流の場です。

① 未来創薬への誘い

コーディネーター：大阪大学大学院薬学研究科 小比賀 聡  
大阪大学大学院薬学研究科 水口 裕之

開催 No・開催日	演題	講師	参加者
第 69 回 2025 年 4 月 23 日(水) ハイブリッド開催	「新しい技術」を「医薬品」へと発展させる苦難と楽しさ	熊本大学大学院 先端科学研究部 准教授 勝田 陽介	257 名 (54 名)
第 70 回 2025 年 6 月 26 日(木) ハイブリッド開催	こどもの肝臓病を基点とした創薬研究	東京大学大学院薬学系研究科 分子薬物動態学教室 准教授 林 久允	143 名 (45 名)
第 71 回 2025 年 10 月 15 日(水) ハイブリッド開催	細胞死を介する免疫応答の機序解明と制御法開発	大阪大学大学院薬学研究科 生体応答制御学分野 教授 齊藤 達哉	270 名 (40 名)
第 72 回 2026 年 1 月 14 日(水) ハイブリッド開催	ウイルスで挑む脳腫瘍治療－臨床試験で得られた研究課題と展望	Brigham and Women's Hospital, Assistant Professor (Harvard Medical School)、 大阪大学大学院医学系研究科 先進デバイス分子治療学共同研究講座 特任准教授 (非常勤) 中島 大	222 名 (52 名)
参加者合計 892名/4回			

② 脳はおもしろい

コーディネーター：大阪大学名誉教授 山本 亘彦  
大阪大学 蛋白質研究所 古川 貴久

開催 No・開催日	演題	講師	参加者
第 49 回 2025 年 6 月 4 日(水) ハイブリッド開催	なぜ人は自殺するのか？自殺の生物学的研究の最前線	神戸大学大学院 医学研究科 精神医学分野 教授 菱本 明豊	312 名 (28 名)
第 50 回 2025 年 8 月 22 日(金) ハイブリッド開催	アルツハイマー病：分子病態から治療薬へ	国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 所長 岩坪 威	270 名 (49 名)
第 51 回 2026 年 1 月 26 日(月) ハイブリッド開催	チャンネルシナプス：新たなシナプス様式の発見とその生命機能の探求	京都大学大学院 医学研究科 分子細胞生理学 教授、 京都府立医科大学大学院 医学研究科 細胞生理学教授 樽野 陽幸	194 名 (32 名)

第 52 回 2026 年 3 月 10 日 (火) ハイブリッド開催	意識・無意識に関連した広域ネットワーク構造	理化学研究所 CBS 触知覚生理学 研究チーム チームディレクター 村山 正 宜	191 名 (32 名)
参加者合計 967 名/4 回			

③ 難病への挑戦

コーディネーター：大阪大学大学院医学系研究科 河原 行郎  
大阪大学 感染症総合教育研究拠点 菊池 章

開催 No・開催日	演題	講師	参加者
第 62 回 2025 年 5 月 12 日 (月) ハイブリッド開催	筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の分子病態解明に向けて - TDP-43 病理の観点から	名古屋大学 環境医学研究所 病態神経科学分野 教授 山中 宏二	242 名 (32 名)
第 63 回 2025 年 9 月 11 日 (木) ハイブリッド開催	細胞間接着を基盤としたがんの悪性化制御を目指して	京大生命科学研究科 高次生体統御学 教授 小田 裕香子	166 名 (18 名)
第 64 回 2025 年 11 月 26 日 (水) ハイブリッド開催	核酸高次構造の解析から見えてきた新たな生命機能と神経難病への臨床応用	熊本大学 発生医学研究所 発生制御部門 ゲノム神経科学分野 教授 塩田 倫史	146 名 (23 名)
第 65 回 2026 年 3 月 4 日 (水) ハイブリッド開催	癌の転移機構とその治療法の確立に向けて	信州大学医学部 分子医化学教室 教授 平塚 佐千枝	165 名 (19 名)
参加者合計 719 名/4 回			

( ) うち会場参加者数

(3) AKIRA 塾

成功された研究者を招き、特に成功の裏に隠されている部分を共有いただくことで、若手研究人材の今後の研究のモチベーションにつなげるなど、若手研究者の育成を目的に開催した。

開催 No・開催日	演題	講師	参加者
第 5 回 2025 年 7 月 23 日 (水) 会場開催	睡眠の謎に挑む～基礎研究から睡眠ウェルネスへ～	筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構 機構長 柳沢 正史	60 名
第 6 回 2026 年 2 月 25 日 (水) 会場開催	VEGFR/FGFR阻害による腫瘍微小環境制御：マルチキナーゼ阻害剤レンバチニブの創薬と臨床応用	エーザイ株式会社 シニアディレクター DHBL エクスターナルイノベーションエキスパート 船橋 泰博	22 名

#### (4) 「大阪科学賞」の共催

創造的科学技术の振興を図り、21世紀の新たな発展と明日の人類社会に貢献することを目的として、「大阪科学賞」により、将来性が期待される研究人材を顕彰した。

「主催」大阪府・大阪市・(一財)大阪科学技術センター

「共催」公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

- |        |   |
|--------|---|
| ① 対象分野 | 理学、工学、農学、生物学、医学、薬学、情報科学とそれらの学際的分野における科学および新技術の発展に寄与した研究・開発          |
| ② 対象者  | 学術上顕著な業績を上げた方、画期的な新技術を開発した方、研究のさらなる発展と研究者としての将来性が期待される方。<br>(50歳以下) |
| ③ 授賞   | 2件(賞金各150万円、賞状・記念品(メダル)を贈呈)   |

・第43回(2025年度)「大阪科学賞」表彰式・記念講演

2025年11月8日(土)(於;大阪科学技術センター)

・受賞者

北島 智也(きたじま ともや)氏

【所属】理化学研究所 生命機能科学研究センター 副センター長/チームディレクター

【受賞業績】卵子の老化の原因解明と抑止技術の開発

畠山 琢次(はたけやま たくじ)氏

【所属】京都大学大学院理学研究科化学専攻 教授

【受賞業績】世界を照らすホウ素の発光材料

## 2 岸本基金研究助成事業

独創性、先行性があり、ライフサイエンスの振興に寄与することが期待できる若手研究者の研究テーマに対し、「岸本基金研究助成事業」として助成した。

### (1) 募集・応募概要

助成額	募集件数	募集方法・期間	応募件数
200万円/件	15件程度	申請者の所属機関長等の推薦 2025年6月1日(土)~7月31日(水)	274件

(2) 選考委員会 開催日:2025年11月20日(木)

(3) 選考結果 研究助成15件 助成額3,000万円(200万円×15件)  
採択率5.4%

(4) 贈呈式 ・開催日:2026年1月19日(月)

・開催場所:千里ライフサイエンスセンタービル 501号~503号会議室

・受領者は次表のとおり

(敬称略、50音順)

氏名	所属	研究題目
いけだ ひでき 池田 英樹	千葉大学大学院医学研究院 呼吸器内科学	肺癌微小環境のミトコンドリア動態に着目したがん免疫制御機構の解明
おいかわ まみ 及川 真実	東京薬科大学生命科学部生命医科学科 再生医科学研究室	異種キメラ発生環境における mtDNA 関連自然免疫応答の解明と制御戦略
おがわ あきこ 小川 亜希子	東北大学大学院薬学研究科・薬学部 モドミクス薬学分野	修飾ヌクレオシドによる生命現象の制御と疾患への応用
おさかだ たくや 小坂田 拓哉	東京科学大学生命理工学院	社会性行動の適切な出力を導く脳内制御基盤の解析
かしわぎ みつあき 柏木 光昭	筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構林悠研究室	レム睡眠の神経・分子基盤の解明
こながや ゆみ 小長谷 有美	理化学研究所生命機能科学研究センター	ERK 活性ダイナミクスによって制御される腸管上皮細胞の運命決定の解明
こんどう たいすけ 近藤 泰介	慶應義塾大学医学部 先端医科学研究所 がん免疫研究部門	抗腫瘍 T 細胞におけるアミノ酸代謝と翻訳制御機構の解明および T 細胞移入療法への応用
さいとう まこと 齋藤 諒	理化学研究所 開拓研究所 理研 ECL 研究チーム	細菌のストレス応答システムの進化を辿り RNA 誘導性システムを発掘する
しらい ゆうや 白井 雄也	大阪大学大学院医学系研究科遺伝統計学	ゲノム解析を基盤とした肺線維症エンドタイプ有病態の解明
なかたに つねとし 中谷 庸寿	慶應義塾大学 医学部 坂口光洋記念 エピジェネティクス・幹細胞生物学講座	核移植胚の異常な複製タイミングの原因解明とリプログラミング効率改善への応用
まつだ たいと 松田 泰斗	奈良先端科学技術大学院大学 バイオサイエンス領域 脳神経機能再生学研究室	再増殖・分化可能な幹細胞性 G0 期の分子基盤の解明
まつもと なおゆき 松本 直之	国立遺伝学研究所 特任助教	マルチカラー in vivo イメージングによる神経回路構築メカニズムの研究
むらおか あやこ 村岡 彩子	名古屋大学医学部附属病院 産婦人科	子宮内膜症の原因細菌が放出するエクソソームに着目した病態解明と創薬開発研究～女性のライフサイエンスに即した独創的研究～
やぶき やすし 矢吹 悌	熊本大学発生医学研究所	RNA 高次構造による神経変性機構の深層理解
よご たかお 余語 孝夫	東京大学医科学研究所 細胞制御研究分野	定量位相イメージングと深層学習によるヒト造血幹細胞の維持機構の解明

### 3 普及啓発事業

一般市民や児童・生徒に、学び、研究者等と交流する機会を提供するとともに、ライフサイエンスに関する知識・情報や、当財団の活動を広く紹介するため各種事業を実施した。

#### (1) 千里ライフサイエンスフォーラム

一般市民を対象に、幅広く教養の向上と交流を図るため、各分野の第一線で活躍される方々を講師として、フォーラム（講話）を月例（8月は休会）で実施した（会場開催と録画配信併用）。

開催日	演題	講師	視聴者数
377回 2025年 4月16日(水)	免疫の不思議	公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団 理事長 審良 静男	168名 (37名)
378回 2025年 5月16日(金)	錯覚の科学：脳のメカニズムからアート・スポーツ・テクノロジーへの応用まで	NTTコミュニケーション科学基礎研究所 フェロー 柏野 牧夫	150名 (28名)
379回 2025年 6月9日(月)	庶民の信仰 微笑みの円空仏	円空学会 理事長 小島 梯次	86名 (23名)
380回 2025年 7月16日(水)	「折り紙」が導く医学×工学イノベーション	北海道大学大学院教育推進機構 准教授 繁富 香織	128名 (26名)
381回 2025年 9月17日(水)	お金のリスクを科学する～金融工学への招待～	慶應義塾大学理工学部 管理工学科 教授 枇々木 規雄	98名 (27名)
382回 2025年 10月8日(水)	知られざる 100年の歴史・大阪ワインの魅力	大阪ワイナリー協会 事務局長 森 なおみ	92名 (36名)
383回 2025年 11月17日(月)	続 ことばの力 一人生後半にこそ読みたい秀歌一	JT生命誌研究館 館長 永田 和宏	83名 (30名)
384回 2025年 12月11日(木)	地域の光を灯す、温故知新のリゾート戦略	(株)温故知新 代表取締役 松山 知樹	65名 (26名)
385回 2026年 1月8日(水)	iPS細胞、オルガノイド、臓器チップを用いた感染症創薬研究	東京科学大学総合研究院 難治疾患研究所 人体模倣システム学 教授 高山 和雄	138名 (39名)
386回 2026年 2月19日(木)	生成AIの発展と社会変革	国立情報学研究所 所長 黒橋 禎夫	167名 (38名)
387回 2026年 3月11日(水)	月の科学の最前線 ～たかが月、されど月～	大阪大学大学院理学研究科 宇宙地球科学専攻 教授 寺田 健太郎	152名 (42名)
合計 1327名 /11回			

( ) うち会場参加者数

#### (2) 市民公開講座

一般市民を対象に、ライフサイエンスに関する身近なテーマ等について公開講座を開催した。

協力：産経新聞社 後援：大阪府

コーディネーター：国立循環器病研究センター 名誉総長 北村 惣一郎  
 (一財)住友病院 名誉院長・最高顧問 松澤 佑次

(第91回のみ) 大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学 教授 下村 伊一郎

開催日	テーマ/演題	講師	参加者
第91回 2025年 9月27日(土) ハイブリット開催	「糖尿病・肥満症治療最前線」 ・変わる糖尿病・肥満症診療  ・糖尿病・肥満症の新しい病態学  ・糖尿病と再生医療	・神戸大学大学院医学研究科 橋渡し科学分野 代謝疾患部門 教授 小川 渉 ・大阪大学大学院医学系研究科 内分泌・代謝内科学 教授 下村 伊一郎 ・公益財団法人田附興風会 医学研究所北野病院 理事長/京都大学 名誉教授 稲垣 暢也	215名 (74名)
第92回 2026年 3月14日(土) ハイブリット開催	「心臓弁膜症の外科的治療」 ・大動脈弁治療の最前線：外科手術とカテーテル治療による生涯設計 ・ロボットを用いた低侵襲僧帽弁手術 ・心房細動を治す：非薬物治療の実際	・大阪大学心臓血管外科 准教授 島村 和男 ・国立循環器病研究センター 心臓外科部長 福罵 五月 ・国立循環器病研究センター 副院長 草野 研吾	214名 (104名)
合計 429名/2回			

( ) うち会場参加者数

### (3) 小学生、高校生向け事業

科学技術の発展を担う次世代の人材育成も含め、生命や自然科学に対する知的好奇心、向上心を醸成するため、小学生、高校生を対象に事業を計画し実施した。

#### ① 小学生（高学年）向け事業

コーディネーター：大阪大学大学院理学研究科 教授 山口 浩靖

開催日	開催場所	テーマ	講師	参加児童
2025年 8月9日 (土)	大阪大学豊中キャンパス 理学部講義室	午前の部 - 19.6℃に冷やして調べる分子の動き  午後の部 二つの植物をつなげ	午前の部 大阪大学ミュージアム・リンクス 准教授 宮久保 圭祐  午後の部 京都大学大学院 理学	37名 (保護者 34名)

		てみよう！	研究科 教授 野田口 理孝	
--	--	-------	------------------	--

② 高校生向け事業「ライフサイエンスセミナー：研究者と語ろう」

コーディネーター：大阪大学免疫学フロンティア研究センター 拠点長・教授 竹田 潔

開催日	開催場所	構成	講師/演題	参加生徒
2025年 8月8日(金)	大阪大学感染症総合教育研究拠点(CiDER) 大ホール  IFReC との共催	午前の部 ・CiDER 見学ツアー  午後の部 ・2名の講師による講演会  ・高校生と講師の意見交換会	「難しいがんに立ち向かう」 大阪大学大学院医学系研究科 産科学婦人科学教室 教授 小玉 美智子  「月の科学の最前線 ～たかが月、されど月～」 大阪大学大学院理学研究科 宇宙地球科学専攻 教授 寺田 健太郎	午前 26名 午後 40名

③ 高校生向け事業「出前授業」

コーディネーター：大阪大学免疫学フロンティア研究センター 拠点長・教授 竹田 潔

<学校法人金蘭千里学園 金蘭千里中学校・高等学校>

開催日	演題	講師	参加生徒
2025年 10月31日(金)	線状降水帯と異常気象	京都大学防災研究所 気象・流域災害研究部門 災害気候研究分野 教授 榎本 剛	168名

<兵庫県立川西緑台高等学校>

開催日	演題	講師	参加生徒
2025年 12月15日(月)	線状降水帯と異常気象	京都大学防災研究所 気象・流域災害研究部門 災害気候研究分野 教授 榎本 剛	75名

(4) 広報誌の発行および財団、財団事業の情報発信

① 広報誌「千里ライフサイエンス振興財団ニュース」の発行・配布

内 容：理事長対談（理事長とトップ研究者の対談）、財団主催の市民公開講座・セミナー等の取材記事、「解体新書」（ライフサイエンス関連の研究者、研究機関の紹介）、「リレートーク」（人と人との交流についてのリレー形式の随筆）、財団各

種事業・イベント情報等の提供

発行回数：3回/105号（6月）、106号（10月）、107号（2月）

部 数：105号・106号1,300部/回 107号1,400部/回

形 態：A4版 24頁（6月）、24頁（10月）、24頁（2月）

主な配布先：全国の大学、研究機関・施設等、ライフサイエンス関連企業、自治体、財団の  
関係者、財団主催行事の参加者など

② 財団、財団事業の情報発信

ホームページを通じて、財団の事業、運営内容（事業計画、財務等）を公開、広報するとともに、セミナー、フォーラム、新適塾、市民公開講座等の動画を配信した。

更に2025年4月からSNS（X）での広報も開始した。

## 4 研究及び実用化支援事業

### (1) 日本医療研究開発機構「橋渡し研究プログラム」(大阪大学受託事業)の活用

当該プログラムにおいて、革新的医療技術創出拠点として一層の支援強化が求められている大阪大学拠点以外のシーズについて、特許出願を目指すシーズAおよび異分野融合型シーズHに係る業務を担当し、実用化に向けた支援を行った(2025年6月～2026年3月)。

#### ○インタビュー

研究者へのインタビューはZoomを用いたオンラインのWeb会議にて実施した。拠点外シーズAについては採択されている13課題と年度内に2回目を実施した採択テーマ2課題について、拠点外シーズHについては採択されている12課題について、研究者へのインタビューを延べ27回実施し(シーズA 15回、シーズH 12回:2025年6月～2025年3月)、進捗状況および今後の計画・要望事項等をヒアリングし、助言・提案等必要な対応を行った。

#### ○関連情報の提供

各シーズについて特許状況や競合技術、関連製品の研究開発状況等を調査し、研究者に情報を提供した。

### (2) 技術講習会

[詳細:別表2]

開催日	テーマ名	コーディネーター	講師	参加者
G74 2025年 6月5日(木) 技術講習 6月6日(金) 実技講習	新たな医学・ 薬学研究を切り 拓く小型魚類 解析 ～動物実験の 限界を魚で突 破!～	大阪大学 微生物病 研究所 生体統御分 野 教授 石谷 太	技術講習 大阪大学 微生物病研究所 生体統 御分野 教授 石谷 太 青山学院大学 理工学部 化学・生 命科学科 脳科学研究室 教授 平田 普三 大阪大学 微生物病研究所 ウイル ス免疫分野 教授 小林 剛 国立循環器病研究センター研究所 心臓再生制御部 部長 菊地 和  実技講習 大阪大学 微生物病研究所 生体統 御分野 助教 阿部 耕太 大阪大学 微生物病研究所 生体統 御分野 助教 穂枝 佑紀	技術 講習 55名 実技 講習 22名

### (3) 千里LF産学学術交流会

[詳細:別表3]

アカデミアの基礎的な研究テーマの進展を図り、将来の実用化に企業の視点を交えた研究方針・方向性に関する議論の場を提供した。

第3回千里LF産学学術交流会

日時:2025年12月1日(月)13時30分～17時30分

場所:千里ライフサイエンスセンタービル5F サイエンスホール

参加者:アカデミア10名、企業11社23名

### (4) ライフサイエンス産学官連携交流事業(大阪府との連携事業)

#### 医療・健康おおさか産学官連携フォーラム 2026

- ・開催日：2026年1月27日（火）10:30～16:00
- ・場所：ライフサイエンスハブウエスト（LINK-J）4階 カンファレンスルーム
- ・参加者：ハイブリッド開催（会場58名、オンライン371名）
- ・内容：大阪から、世界へ誇れる近未来型の創薬基盤・健康生活の構築に向けて、特別講演、彩都における新たな研究開発の動き、健都における新たな取り組み

#### (5) NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議との共催事業

山村雄一先生 北大阪産学連携ライフサイエンス赤ちょうちん構想40周年記念シンポジウム

- ・開催日：2026年1月15日（木）15:00～17:00（終了後、懇親会開催）
- ・場所：千里ライフサイエンスセンタービル サイエンスホール（会場開催）
- ・参加者：84名
- ・内容：来賓挨拶と岸本名誉理事長、永山名誉会長（中外製薬）の講演とトークセッション

## 5 財団事業

### ○理事会及び評議員会の開催状況

#### <理事会>

- |                       |            |
|-----------------------|------------|
| 1. 2025年度第1回理事会       | 2025年5月30日 |
| 2. 2025年度第2回理事会（書面決議） | 2025年6月17日 |
| 3. 2025年度第3回理事会       | 2026年3月10日 |

#### <評議員会>

- |                  |            |
|------------------|------------|
| 1. 2025年度第1回評議員会 | 2025年6月17日 |
|------------------|------------|

- |                      |                          |
|----------------------|--------------------------|
| ○企画委員会（財団人材育成事業等の企画） | 2025年8月21日<br>(ハイブリッド開催) |
|----------------------|--------------------------|

- |            |             |
|------------|-------------|
| ○研究助成選考委員会 | 2025年11月20日 |
|------------|-------------|

# 2025年度事業報告

## 附属明細書

公益財団法人千里ライフサイエンス振興財団

# 別表 1

## 《千里ライフサイエンスセミナー》

開催日	テーマ・演題	コーディネーター・講師
<p>2025 年 5 月 21 日(水) セミナーX1</p> <p>Hybrid 開催 Online 289 名 会場参加 31 名</p>	<p>新興感染症のウイルス学</p> <p style="text-align: center;">— 演 題 —</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめに</li> <li>第一部 新興感染症の発生機序を考える           <ul style="list-style-type: none"> <li>・カエルツボカビ研究からみた感染症の生態学的研究の意義</li> <li>・野生動物に由来する感染症と環境</li> </ul> </li> <li>・新興感染症に対する One Health アプローチ</li> <li>第二部 古典的なウイルス学から、構造、そしてバイオインフォへ           <ul style="list-style-type: none"> <li>・エボラウイルスの病原性発現における炎症性応答誘導の分子機序</li> <li>・エボラウイルスの細胞内増殖機構</li> </ul> </li> <li>・動物由来ウイルスのリスク評価に向けたバイオインフォマティクス技術の開発</li> <li>・おわりに</li> </ul>	<p style="text-align: center;">— 講 師 —</p> <p>国立健康危機管理研究機構(JIHS) 国立感染症研究所 獣医科学部 部長 前田 健</p> <p>国立健康危機管理研究機構(JIHS) 国立感染症研究所 ウイルス第一部 部長 海老原 秀喜</p> <p>国立感染症研究所 獣医科学部 部長 前田 健</p> <p>国立環境研究所 生態リスク評価・対策研究室 室長 五箇 公一</p> <p>国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所 生物多様性・気候変動研究拠点 研究専門員 岡部 貴美子</p> <p>国立感染症研究所 獣医科学部 部長 前田 健</p> <p>国立感染症研究所 ウイルス第一部 部長 海老原 秀喜</p> <p>京都大学医生物学研究所 微細構造ウイルス学分野 教授 野田 岳志</p> <p>千葉大学大学院医学研究院 感染病態学 特任助教 川崎 純菜</p> <p>国立感染症研究所 ウイルス第一部 部長 海老原 秀喜</p>
<p>2025 年 7 月 29 日(火) セミナーX2</p> <p>Hybrid 開催 Online 373 名 会場参加 54 名</p>	<p>脳免疫機能の生理から病理まで</p> <p style="text-align: center;">— 演 題 —</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめに</li> <li>・病態におけるグリア細胞の変容</li> <li>・末梢免疫細胞による脳の疾患制御</li> <li>・エクソソーム解析から目指す、自閉スペクトラム症の新たな病態解明</li> <li>・認知症病態を司るミクログリアの可視化と制御</li> <li>・脳神経回路の構造改変とグリア機能</li> <li>・グリア細胞置換による脳機能制御</li> <li>・おわりに</li> </ul>	<p style="text-align: center;">— 講 師 —</p> <p>山梨大学・医学部長、同大学院・医学域長、同大学院総合研究部医学域 薬理学講座 教授 小泉 修一</p> <p>名古屋大学大学院医学研究科 分子細胞学 教授 和氣 弘明</p> <p>山梨大学大学院総合研究部医学域 薬理学講座 教授 小泉 修一</p> <p>名古屋大学大学院医学研究科 分子細胞学 教授 和氣 弘明</p> <p>九州大学生体防御医学研究所 アレルギー防御学分野 准教授 伊藤 美菜子</p> <p>東京大学先端科学技術研究センター 細胞関連医科学分野 教授 星野 歩子</p> <p>量子医学研究所 脳機能イメージング研究センター センター長、 大阪公立大学大学院医学研究科 病因診断科学 教授 樋口 真人</p> <p>東京大学大学院医学系研究科 神経細胞生物学分野 教授、 理化学研究所 脳神経科学研究センター センター長 岡部 繁男</p> <p>山梨大学大学院総合研究部医学域 薬理学講座 教授 小泉 修一</p> <p>名古屋大学大学院医学研究科 分子細胞学 教授 和氣 弘明</p>

<p>2025年 9月4日(木) セミナーX3</p> <p>Hybrid開催 Online 372名 会場参加 40名</p>	<p>がんシリーズ 第10回 がんの臨床応用に向けての新規モダリティ</p> <p>—演題—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめに</li> <li>・がんに対する遺伝子細胞治療の現状と展望</li> <li>・メタゲノム解析を基盤とした移植片対宿主病に関連する腸内細菌の制御</li> <li>・光濃縮システムによる低侵襲ハイスループット体液マーカー計測法の開発</li> <li>・mRNA 創薬とガン治療への応用</li> <li>・抗体エンジニアリング技術を用いた抗腫瘍抗体の創出</li> <li>・デザイナーエクソソームによる免疫制御とその品質管理</li> <li>・おわりに</li> </ul>	<p>大阪公立大学大学院医学研究科 病態生理学 教授 大谷 直子 大阪大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学 教授 保仙 直毅</p> <p>—講師—</p> <p>大阪公立大学大学院医学研究科 病態生理学 教授 大谷 直子 大阪大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学 教授 保仙 直毅 大阪公立大学大学院医学研究科 ゲノム免疫学 准教授、 東京大学医学研究所 ヒトゲノム解析センター メタゲノム医学分野 特任准教授 藤本 康介 大阪公立大学大学院理学研究科 物理学専攻 教授、 LAC-SYS 研究所 所長 飯田 琢也 大阪大学 感染症総合教育研究拠点(CiDER) 臨床生命工学チーム 教授 位高 啓史 中外製薬株式会社 研究本部 バイオ医薬研究部 兼 トランスレーショナルリサーチ本部プロジェクト推進部 副部長・主席研究員 櫻井 実香 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科 免疫学教授、 金沢大学ナノ生命科学研究所 教授 華山 力成 大阪大学大学院医学系研究科 血液・腫瘍内科学 教授 保仙 直毅</p>
<p>2025年 11月19日(水) セミナーX4</p> <p>Hybrid開催 Online 554名 会場参加 58名</p>	<p>躍動する中分子創薬:現状と今後の展望</p> <p>—演題—</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめに</li> <li>・核酸医薬の臨床開発動向と安全性確保に向けた取り組み</li> <li>・人工核酸技術を基盤とした難治性神経疾患に対するアンチセンス医薬創薬</li> <li>・タンパク質分解医薬品 PROTAC と Molecular Glue</li> <li>・標的タンパク質分解誘導を基盤にした薬剤開発</li> <li>・Drug-like ライブラリーによる細胞内タフターゲットを狙う中分子創薬</li> <li>・ペプチドエピトープワクチンの開発</li> <li>・組織移行性抗体 AccumBody®を用いた DDS による高機能性医薬品</li> <li>・ナノゾラの研究開発と構造的特徴</li> <li>・おわりに</li> </ul>	<p>大阪大学 共創機構 特任教授 坂田 恒昭 国立医薬品食品衛生研究所 遺伝子医薬部 部長 井上 貴雄</p> <p>—講師—</p> <p>大阪大学 共創機構 特任教授 坂田 恒昭 国立医薬品食品衛生研究所 遺伝子医薬部 部長 井上 貴雄 ルクサナバイオテック株式会社 代表取締役社長 佐藤 秀昭 東京大学大学院薬学系研究科 タンパク質分解創薬社会連携講座 特任教授 内藤 幹彦 アステラス製薬株式会社 オンコロジーリサーチエンジニアードスモールモレキュールズ 主管研究員 吉成 友博 中外製薬株式会社 研究本部 シニアフェロー 小嶋 哲郎 大阪大学大学院医学系研究科 健康発達医学寄附講座 教授 中神 啓徳 鹿児島大学大学院理工学研究科理学専攻化学プログラム 教授 伊東 祐二 大正製薬株式会社 研究本部 医薬研究センター 構造生物学研究室 副室長 黒川 智文 国立医薬品食品衛生研究所 遺伝子医薬部 部長 井上 貴雄</p>

<p>2026年 1月21日(水) セミナーX5</p> <p>Hybrid開催 Online 313名 会場参加 60名</p>	<p>生命科学の未来を拓くクライオ電子顕微鏡のフロンティア</p> <p style="text-align: center;">－演題－</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はじめに</li> <li>・生命の基盤を可視化して医学・創薬に貢献するクライオ電子顕微鏡</li> <li>・クライオ電子線トモグラフィーによる上皮構造</li> <li>・クライオ電子顕微鏡で多様な組織を解剖する</li> <li>・創薬・医学研究に資する膜タンパク質の構造研究</li> <li>・第一三共の創薬におけるクライオ電子顕微鏡の活用</li> <li>・大塚製薬におけるクライオ電子顕微鏡が加速する創薬研究</li> <li>・データから見るクライオ電子顕微鏡の現状</li> <li>・おわりに</li> </ul>	<p>大阪大学大学院生命機能研究科 日本電子 YOKOGUSHI 協働研究所 特任教授 難波 啓一 大阪大学蛋白質研究所 電子線構造生物学研究室 教授、 大阪大学蛋白質研究所 高分解能クライオ電子顕微鏡研究室 教授 加藤 貴之</p> <p style="text-align: center;">－講師－</p> <p>大阪大学大学院生命機能研究科 特任教授 難波 啓一 大阪大学大学院生命機能研究科 特任教授 難波 啓一 東京大学大学院医学系研究科 分子細胞生物学専攻 教授 吉川 雅英 山梨大学大学院総合研究部 医学域基礎医学系 教授 小田 賢幸 京都大学大学院生命科学研究所 高次生命科学専攻 教授、 同大学院医学研究科 分子生体統御学講座 教授 岩田 想 第一三共株式会社 研究開発本部 研究統括部 モダリティ第一研究所 第七グループ プリンシパルサイエンティスト 石井 亮平 大塚製薬株式会社 大阪創薬研究センター クライオ電子顕微鏡研究室 室長 宮崎 直幸 大阪大学蛋白質研究所 教授 加藤 貴之 大阪大学蛋白質研究所 教授 加藤 貴之</p>
---	--	---

## 別表 2

《国際シンポジウム (Senri Life Science International Symposium)》

開催日	テーマ・演題	コーディネーター・講師・協賛企業
<p>2026年 2月5日(木)～ 2月6日(金) X6</p> <p>会場参加 229名</p>	<p>2026 Senri Life Science International Symposium &amp; The 15th International Symposium of IFRcC “International Symposium on Advanced Immunology 2026”</p> <p style="text-align: center;">－演題－</p> <p>Day 1 (Feb.5th)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Interleukin6; from its discovery to clinical application Past, Present and Future*</li> <li>・A T cell-centric View of Human Innate Lymphoid Cell Differentiation</li> <li>・Dendritic cell diversity in directing discrete immune modules</li> <li>・Macrophages: “Master regulators of inflammation control”</li> <li>・Meningeal Treg control of brain health and degeneration</li> <li>・Treatment of immunological diseases by converting disease-mediating T cells into Tregs</li> </ul>	<p>大阪大学免疫学フロンティア研究センター (WPI-IFReC) 拠点長・教授 竹田 潔 千里ライフサイエンス振興財団 理事長 審良 静男</p> <p style="text-align: center;">－講師－</p> <p>岸本 忠三* 大阪大学(千里ライフサイエンス振興財団、日本) *急用のため、岸本先生の講演はキャンセル James Di Santo (Institut Pasteur, France)</p> <p>Kenneth Murphy (Washington University in St. Louis, USA) Miriam Merad (Icahn School of Medicine at Mount Sinai, USA) Diane Mathis (Harvard University, USA)</p> <p>坂口 志文(大阪大学免疫学フロンティア研究センター (WPI-IFReC)、日本)</p>

	<p>Day 2 (Feb.6th)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•Immgen T</li> <li>•Discrimination of Self and Neoself Antigens by T Cells in Immune Homeostasis</li> <li>•Mapping the T cell repertoire to a model system of the human gut microbiome</li> <li>•Mapping B Cell Tolerance Breakdown in Lymph Nodes of Lupus Patients</li> <li>•Integrative projection of multi-layer omics data into the single-cell immune landscape</li> <li>•Mapping RNA dynamics in immunity in single cells and space</li> <li>•Inflammation shapes bacterial evolution and host immunity</li> <li>•Gut Reactions: Immune regulatory pathways in the intestine</li> <li>•Identification of microbiota-derived metabolite and T cell subset implicated in the pathogenesis of Crohn's disease</li> </ul>	<p>Christophe Benoist (Harvard University, USA) 森 俊輔(大阪大学免疫学フロンティア研究センター (WPI-IFReC)、日本) Kazuki Nagashima (Harvard University, USA)</p> <p>Caterina Faliti (Emory University, USA)</p> <p>枝廣 龍哉(大阪大学大学院医学系研究科、日本)</p> <p>小口 綾貴子(理化学研究所/京都大学高等研究院 ヒト生物学高等研究拠点 (WPI-ASHBi)、日本) Hiutung Chu (University of California San Diego, USA) Fiona Powrie (University of Oxford, UK)</p> <p>竹田 潔(大阪大学 免疫学フロンティア研究センター (WPI-IFReC)、日本)</p>
--	--	---

### 別表 3

#### ≪技術講習会≫

開催日	テーマ・演題	コーディネーター・講師・協賛企業
<p>G74 2025年 6月5日(木) 技術講習 6月6日(金) 実技講習</p> <p>技術講習 (会場) 55名 実技講習 (現地) 22名</p>	<p>新たな医学・薬学研究を切り拓く小型魚類解析 ～動物実験の限界を魚で突破！～</p> <p style="text-align: center;">－演題－</p> <p>技術講習(会場): 2025年6月5日(木)13:00～16:20</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•ゼブラフィッシュを用いたがん・ヒト疾患研究</li> <li>•ゼブラフィッシュを用いた化合物探索と発生毒性試験</li> <li>•ゼブラフィッシュを活用したヒト病原ウイルスの増殖ー新たな感染モデルの可能性</li> <li>•透明魚ダニオネラを用いた生命科学・基礎医学研究の新展開</li> <li>•超速老化魚キリフィッシュを利用した健康寿命制御研究</li> <li>•パネルディスカッション</li> </ul> <p>実技講習(現地、大阪大学微生物病研究所): 2025年6月6日(金)9:30～12:30</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>•魚類モデルを用いた実習・施設見学(ゼブラフィッシュ/キリフィッシュ)</li> </ul>	<p>大阪大学 微生物病研究所 生体統御分野 教授 石谷 太</p> <p style="text-align: center;">－講師－</p> <p>大阪大学 微生物病研究所 生体統御分野 教授 石谷 太 青山学院大学 理工学部 化学・生命科学科 脳科学研究室 教授 平田 普三 大阪大学 微生物病研究所 ウイルス免疫分野 教授 小林 剛 国立循環器病研究センター研究所 心臓再生制御部 部長 菊地 和 大阪大学 微生物病研究所 生体統御分野 教授 石谷 太 (司会:石谷 太)</p> <p>大阪大学 微生物病研究所 生体統御分野 助教 阿部 耕太 大阪大学 微生物病研究所 生体統御分野 助教 穂枝 佑紀</p>

別表 4

《千里 LF 産学学術交流会》

開催日	学:研究紹介(講演、ポスター)	産:参加者
第3回 2025年 12月1日(月)  会場開催	<p>発表者:2019年岸本基金研究助成採択者、8名 日本免疫学会「きぼう」プロジェクト、2名</p> <p>－演 題－</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・赤嶺 綸子(京都大学医学研究科 免疫細胞生物学教室「きぼう」プロジェクト研究員)「関節リウマチ患者滑膜における免疫細胞動態」</li> <li>・伊藤 美菜子(九州大学 生体防御医学研究所 アレルギー防御学分野 准教授)「中枢神経系疾患の免疫制御による新規治療法の開発」</li> <li>・井上 大地(大阪大学大学院医学系研究科病理学講座 がん病理学教室 教授)「遺伝情報の発現機構の理解に基づく血液がんの包括的理解と治療応用」</li> <li>・遠藤 裕介(公益財団法人かずさDNA研究所 オミックス医科学研究室 室長)「脂質代謝を標的とした Th17 誘導型自己免疫疾患治療の基盤構築」</li> <li>・昆 俊亮(東京理科大学 生命医科学研究所 がん生物学部門 准教授)「細胞競合マーカーを用いたがん変異細胞の検出法の開発」</li> <li>・齋尾 智英(徳島大学 先端酵素学研究所 分子生命科学分野 教授)「タンパク質集合制御に着目した神経難病発症機構の解明」</li> <li>・高澤 郁夫(東京大学大学院医学系研究科 内科学専攻 アレルギーリウマチ学「きぼう」プロジェクト研究員)「自己炎症性疾患に共通する FLAME 遺伝子群の同定と治療戦略の検討」</li> <li>・竹内 春樹(東京大学大学院理学系研究科 生物科学専攻 分子神経生理学 教授)「嗅覚の価値と可能性 ～匂いによる認知症の予測と予防～」</li> <li>・戸田 聡(大阪大学 蛋白質研究所 細胞機能デザイン研究室 准教授)「組織再生を促進するデザイナー細胞の開発」</li> <li>・橋口 隆生(京都大学 医生物学研究所 ウイルス制御分野 教授)「ウイルスの細胞侵入阻害機構の構造基盤と構造情報を活用した抗原/抗体デザイン」</li> </ul>	<p>参加企業: 国内製薬会社 11 社、23 名</p> <p>エーザイ、1 名 大塚製薬、3 名 小野薬品工業、1 名 塩野義製薬、2 名 住友ファーマ、4 名 武田薬品工業、1 名 田辺ファーマ、3 名 第一三共、1 名 中外製薬、2 名 東レ、3 名 UBE、2 名</p>

《NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議との共催事業》

開催日	テーマ、演題	講師
2026年 1月15日(木)  会場開催 84名	<p>山村雄一先生 北大阪産学連携ライフサイエンス 赤ちょうちん構想 40周年記念シンポジウム</p> <p>1. 団体紹介</p> <p>2. 来賓挨拶</p> <p>3. シンポジウム(講演、トークセッション) 産官学連携が生んだ新薬「アクテムラ」</p>	<p>審良 静男(千里ライフサイエンス振興財団 理事長) 坂田 恒昭(近畿バイオインダストリー振興会 議理事長/大阪大学共創機構特任教授)</p> <p>熊ノ郷 淳(大阪大学総長) 住谷 和重(近畿経済産業局長) 石井 優(大阪大学医学系研究科長・教授) 木村 徹(住友ファーマ株式会社代表取締役 社長)</p> <p>岸本 忠三(千里ライフサイエンス振興財団 名誉理事長) 永山 治(中外製薬株式会社名誉会長)</p>